

「地域の健康」推進にも注力 社員の健康だけではなく

南海放送株式会社

愛媛県松山市に本社のある南海放送株式会社は、愛媛県を対象地域としたラジオとテレビの放送事業者である。70年近い歴史を持つ放送局として、地域密着の番組やイベントなどで長年親しまれてきた。「人材こそ最大の企業資産」という理念を掲げる同社では、経営トップによる健康宣言に基づき、心と体の健康のみならず、地方放送局という特性を活かし、番組やイベントを通じた「地域の健康」推進にも力を入れてきている。

同社では、2016年に当時の田中和彦社長(現会長)が「イクボス宣言」を行い、働き方改革に着手して以降、グループ全体で健康経営に取り組んできた。その後、現在の大西康司社長のイニシアティブのもと、健康経営推進体制の強化をはじめとした施策を行うなかで、2020年には放送局で初めて「健康経営優良法人」となり、以降3年連続で認定されるなど、大きな成果を上げている。

そこで、同社の健康づくりへの諸活動について、取締役常務執行役員の松崎良二さんと総合企画局の荻山晃典さんにお話を伺った。

時代や社会の変化に即応して 柔軟に健康のための組織を改変・整備

同社では、社員の健康推進を重要な企業課題と捉え、そのためのさまざまな組織を設置し、時代に応じて改変を行ってきた。最近では、2022年春から経営本部のなかに「サステナブル事業局」を設置。社内でのSDGsや先進的な健康経営施策の推進などとあわせて、地域における健康づくりを応援する活動や、文化・産業振興にも貢献するという体制を整えている。

なかでも、同事業局内のワークライフバランス推進チームは、関連会社を含む女性社員を中心とした5名で構成されたメンバーで、これまで働き方改革や社員の健康増進のためのアイデアを現場発で具体化してきた実績を持つ。そのひとつが「パワーフレーズ」だ。

「社員からそれぞれが自分の力になるような言葉を提出してもらい、トイレなど誰でも1日1度は目にするところに掲示する活動です。一人ひとりの“パワーフレーズ”を掲示することによって、自由でポジティブな職場の雰囲気をつくろう、という



トイレに掲示された
パワーフレーズ

ものです」と、松崎さんはその狙いを語る。他の社員のパワーフレーズを知ることによって「この人はこんなことを考えていたのか」という気づき生まれ、社員相互の理解も深まったという。現在はパワーフレーズだけでなく、各種のハラスメントに関する注意喚起なども掲示している。

この事例のように、同社ではトップから発信される健康経営に対する方向性を、まず部長クラスで構成されている健康経営・SDGs推進チームが各部署に浸透させ、その後ワークライフバランス推進チームが現場の声を吸い上げて具体策として提案し、会社の施策として推進していく、という流れが定着しているのだ。

ストレスチェックで総合健康リスクを低減

同社が力を入れている「心の健康」のための施策に、2017年から始めたストレスチェックがある。放送局というクリエイティブに関わる仕事のため、それまではどうしても職人気質で長時間労働をよしとする風潮があり、精神的にも大変だったと荊山さんは振り返る。

「もちろんよい面もあったのですが、弊害も出てくるようになり、当時の田中社長が働き方改革を宣言した時の具体策が、イクボス宣言でありストレスチェックだったのです」と荊山さん。全社を挙げて取り組んだ甲斐があり、近年は4年連続ストレスチェックの受診率は100%で、総合健康リスクも減少傾向にあるという。

「メンタルヘルスという面では、今春から新入社員に対するメンター制度を導入して、仕事だけでなくプライベートの悩みも受け止めるようにしています」と松崎さん。

もともと後輩が先輩に相談しやすい企業風土ではあったが、新型コロナのために十分なコミュニケーションが望めなくなったため、自主的な相談を待つのではなく、メンター制度として確立することで、より相談しやすい環境を整えたということだ。

さらに、今春からの試みとして「エンゲイジメントの測定」も行っているという。これは、入社してまだ日の浅い社員の会社に対する共感度や信頼度を確認しながら、社員教育を有効に進めていくための取組だ。今年度は、まず入社3年目までの社員を対象に開始し、今後はその効果を測定しながら継続していくという。

地域密着の放送局として 愛媛の健康づくりを応援し続ける

さらに同社では「地域の健康」のために、2021年6月に「Well-being (ウェルビーイング)愛媛」*という組織の立ち上げに参加し、愛媛県内の自治体や企業、大学などと連携して心と体、そして社会の健康づくりを推進する取組を開始している。

この組織は、愛媛の健康経営優良法人認定企業が中心となって立ち上げたもので、例えば、去年はSDGsの達成に不可欠であると世界で注目されているウェルビーイングという視点について考えるカンファレンスをオンラインで開催し、動画配信したところ3,600回を超える視聴があった。「その後はコロナ禍の影響であまり活動できていないのですが、持続可能な社会の構築に向けて不可欠な取組だと思っておりますので、じっくり育てていきたいと思っております」と荊山さんは力を込める。

また、健康経営を身近なところから応援するため、同社のテレビ、ラジオ、セミナーを通して職場や家庭での健康づくりのヒントを紹介する「えひめ健康企業応援キャンペーン」の取組も継続している。

「マスコミの役割として、地元の健康づくりの活性化を図ることは重要だと考えています。また、一方で楽しんでやっていきたいとも思っています。例えば、コロナ前には2年間ほど体力テストを行い好評でした。単純に小学校の体力テストみたいなものを社内で行ったのですが、結構みんな真剣になって競い合うので面白い取組となりました」と荊山さん。

同社では、今後も地域密着の放送局として、どこまでも楽しく前向きに取り組める健康づくり活動を活性化させていく方針だ。

* 愛媛県における健康経営やSDGsの取組を推進するため、一般社団法人社会的健康戦略研究所の愛媛ユニットとして発足したもの。

会社概要

南海放送株式会社
事業内容：情報通信業
設立：1953年
従業員：114名(2022年2月末現在)
所在地：愛媛県松山市